



令和5年度
診療のご案内

Kitakyushu City Yahata Hospital

地方独立行政法人 北九州市立病院機構
北九州市立八幡病院



基本理念

私たちは、24時間365日、質の高い医療を提供し、皆様に、安心、信頼、満足していただける病院をめざします。

基本方針

- 1 医療の安全に万全を期し、科学的根拠に基づく、質の高い医療を提供します。
- 2 患者さんの生命の尊厳とプライバシーを守り、患者さん中心の医療を行ないます。
- 3 保健・福祉・医療機関と連携し、地域社会への積極的な医療貢献を果たします。
- 4 教育・研鑽に努め、専門的な知識・熟練した技能をもって、信頼と責任ある医療を提供します。
- 5 公共性、経済性を考慮した健全経営に努めます。

患者の権利と責務

北九州市立八幡病院では、安全・安心で患者さんに満足していただける医療を提供するために患者さんの基本的な権利を明確にして、これを尊重いたします。同時に守っていただきたい事柄についても責務として定め、ここに患者の権利と責務として掲示します。

患者の権利

- 1 人格、価値観など個人として尊重され、適切な医療を公平に受けることができます。
- 2 病気についてや検査・治療等について理解しやすい言葉や方法で、十分な説明と情報提供を受けることができます。
- 3 検査・治療について自らの意思で選択し同意、拒否をすることができます。
- 4 現在の検査や治療等について他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求めるることができます。
- 5 個人のプライバシーは守られ、医療上の個人情報は保護され自分の診療記録の開示を求めるすることができます。

患者の責務

- 1 良質で安全な医療を実現するために、ご自身の健康に関する情報を正確に提供してください。
- 2 十分な説明と納得の上で、ご自身の治療に積極的に参加・協力してください。
- 3 他の患者さんの治療・療養環境に配慮し、病院職員の医療業務に支障を与えないように病院の規則や社会的マナーを守る責務があります。
- 4 適切な医療を維持していただくために、医療費を遅滞なくお支払いください。

子どもの患者の権利

こども憲章

北九州市立八幡病院小児科では全ての子供とそのご家族に安全・安心の医療を24時間365日提供するため子供の権利を明確にしてそれを尊重いたします。

- 1 子どもはひとりの人として大切にされ幸せを望まれ思いやりのある医療を受けることができます。
- 2 子どもは医療の現場で最善の利益を得るように考えてもらう権利を有しています。
- 3 子どもが病気になった時には安心、安全な環境で心や体のケアを受けることができます。
- 4 子どもは入院中、親や親の代わりになる人と出来うる限り一緒に過ごすことができます。
- 5 子どもは不当である(虐待、酷使、放任など)と思われる環境にいると判断された場合、日常生活、福祉、医療において完全に守られる権利を有しています。
- 6 子どもは病気の事や病気を治す方法を年齢や理解力に合わせた方法で言葉や絵を使って病院スタッフから説明を受けることができます。
- 7 子どもは十分な説明を受けた上で自分の気持ちや希望や意見を言うことができ希望通りにならなかった場合には説明してもらう権利を有しています。
- 8 子どもは病気や障害、貧富格差、能力などを理由に決して差別されず体や心を傷つける(苦痛を伴う検査など)全てのことについて説明を受けそこから守られます。
- 9 子どもは自分の病気の事や自分が知られたくないことに関し勝手に誰かに言われない権利があります。
- 10 子どもは病気の時にも遊んだり勉強したり子供らしく生活する権利があります。
- 11 今だけでなく子どもが大人になっても病気や障害について寄り添える医療やケアを行うため継続的な連携を提示されます。

CONTENTS

院長挨拶	3
幹部紹介	4
病院実績	5
診療科	
外科(一般)	7
消化器外科	8
呼吸器外科	9
小児外科	10
乳腺外科	11
脳神経外科	12
整形外科・リハビリテーション科	13
形成外科	14
内科	15
循環器内科	17
小児総合医療センター	18
小児血液・腫瘍科	21
小児神経内科	22
泌尿器科	23
皮膚科	24
眼科	25
精神科	26
婦人科	27
耳鼻咽喉科	28
放射線科	29
麻酔科	30
救急科	31
歯科	32
臨床検査科	33

専門医・資格認定等一覧

医師紹介	35
------	----

院内センター

救命救急センター	44
小児臨床超音波センター	47
消化器・肝臓病センター	48
災害外傷外科、外傷・形態修復・治療センター	49

診療支援部

薬剤課	51
臨床検査技術課	52
放射線技術課	53
リハビリテーション技術課	54
栄養管理課	55
臨床工学課	56

看護部

看護部	58
-----	----

地域医療連携室

地域医療連携室	61
---------	----

病院概要・フロアーノ

病院概要	64
フロアーノ	66

院長挨拶



院長
岡本 好司
おかもと こうじ

昨年、新型コロナ感染症禍の真っ只中に病院長に就任し、瞬く間に1年がすぎ、2年目に突入しております。本年5月からは新型コロナ感染症も2類から5類に類下げとなり、段々とコロナ前の診療に戻り、皆様方もwithコロナでの二刀流日常診療にお忙しいことと存じます。

昨年度は、新型コロナ感染症第7波と第8波を経験しました。第7波は、感染者数の増大、第8波はオミクロン株による感染が増加し、第7波よりは感染者数は減少したものの、これまで最大の死亡者数の増加を認めました。当院においても、入院数は増加し、死亡例も経験いたしました。しかしながらそのような逼迫した場面でもお陰様で、当院はこの3年間診療部門では一度もクラスターを発生することなく、診療を継続することが出来ました。これも、呼吸器内科、感染制御室を中心として職員皆一丸となって感染管理に注力したことが功を奏しました。また、周辺病院のクラスターによる救急車の受け入れが逼迫し、昨年にも増して救急受け入れ数が爆発的に増加しました。救急車搬送受け入れ数は、2021年度と比べて約1,000台の増加でした。救命救急センターとして使命が果たせていたとは思いますが、現場ERの医師、看護師を含めた医療者の疲労感は想像を絶するものであり、この場を借りて感謝するとともに、常日頃から当院にご厚情を賜っている多くの病院、クリニック、医院の先生方からのご依頼をお断りせざるを得ない事態に度々陥りましたことを深くお詫び申し上げます。5類になったとは言え、新型コロナ感染はこれからも消えることなく、withコロナで診療を進めていかなければならぬと思われます。これからも、一層気を引き締めて、診療に励んでまいります。

令和4年度は、循環器内科の充実を図り、心臓カテーテル検査を再開いたしました。さらに、新型コロナで患者数が減っていた小児科の診療数は、世の中の感染への対応の変化により激増することが予想され、身を引き締める面持ちで診療に向かい合うこととなりそうです。これからも益々診療体制の充実に努め、当院の使命であります24時間365日、軽症重症問わず、老若男女すべからく受診を希望されれば、診療を行なうために最大限の応需を行うべく日々オールハンドで対処してまいりたいと考え、一層の努力をしていく所存です。働きかた改革で、職員の健康に留意しながらも、進むべき方向がぶれることなく、社会に貢献出来る、そして市民に信頼される病院を目指してまいります。

今後とも、温かく、そして末永いご支援を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

幹部紹介



副院長
小児総合医療センター長
小児神経内科主任部長
天本 正乃
あまもと まさの



副院長
診療支援部長
医療情報管理室長
岡部 聰
おかべ さとし



統括部長
医療安全管理室長
形成外科主任部長
田崎 幸博
たさき ゆきひろ



統括部長
救命救急センター長
地域医療連携室長
木戸川 秀生
きどがわ ひでお



看護部長
吉國 佐和子
よしくに さわこ



事務局長
瀬戸口 誠
せとぐち まこと

令和4年度 病院実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新入院患者数(人)	506	505	558	550	615	495	570	551	604	554	473	525
1日平均入院患者数(人)	207.4	197.9	195.0	212.1	229.7	203.5	205.1	210.6	226.2	225.5	223.7	212.1
病床稼働率(%)	71.3	68.0	67.0	72.9	78.9	69.9	70.5	72.4	77.7	77.5	76.9	72.9
平均在院日数(日)	11.5	10.9	9.5	10.9	10.8	10.8	10.3	10.7	10.3	12.0	12.1	11.3
1日平均外来患者数(人)	440.6	494.9	436.9	497.1	466.4	458.9	479.6	478.6	512.7	504.0	474.0	488.0
手術件数(件)	160	156	181	158	193	148	184	185	156	186	166	164
救急搬入患者数(人)	275	316	286	402	461	326	346	382	460	418	326	336
うち入院患者数(人)	129	118	129	128	159	120	132	142	158	135	139	139
紹介患者数(人)	524	542	641	613	556	564	608	624	575	504	468	572
紹介率(%)	75.3	75.6	77.2	73.6	62.5	78.8	85.8	86.1	86.7	86.1	82.2	82.5
逆紹介患者数(人)	665	611	673	792	670	623	714	760	673	584	615	788
逆紹介率(%)	95.6	85.3	81.0	95.1	75.3	87.1	100.8	104.9	101.5	99.8	108.0	113.7



診療科

外科（一般）

診療科の紹介

外科全体の本年度スタッフは、岡本好司院長、木戸川秀生統括部長、井上征雄呼吸器外科主任部長、新山新小児外科主任部長、山吉隆友外科主任部長、野口純也消化器外科主任部長、上原智仁部長、又吉信貴部長、沖本隆司部長、大坪一浩部長、福留唯里加副部長で構成しております。4月より福留が新たに赴任し、日々の診療を行なうこととなりました。

取り扱う主な疾患

消化器外科、肝胆脾外科、呼吸器外科、小児外科などの様々な領域に対し、良性疾患などの一般外科に加え悪性疾患に対する集学的治療はもちろんのこと、外傷や胸腹部緊急疾患に対する救急外科についても対処しております。診断・治療を含む上下部消化器内視鏡・ERCPやEUS等、他の施設ではみられない幅広い分野にわたる研鑽を行なっていることが当科の大きな特徴であり、診療の基盤であります。

当科の特徴

一般外科的疾患に加え、悪性疾患に対しては診断から治療、術後治療として抗癌剤を用いた化学療法なども胸腹部を問わず積極的に行っており、日本外科学会、消化器外科学会、呼吸器外科学会、小児外科学会の専門施設としての維持に加え、がん治療認定医機構における認定研修施設として認可されております。また、様々な救急・外傷疾患にも対応しており、外傷専門医研修認定施設、腹部救急医学会認定施設としても機能しております。消化器疾患では上部・下部の診断的内視鏡検査、消化管出血や腫瘍性狭窄に対する緊急内視鏡治療、肝胆道系緊急疾患に対するERCPなど消化器内視鏡学会専門施設としての幅広い治療も行なっています。また、一般的な術後経過や敗血症、感染疾患に対しても厳格な術後管理を徹底しており、外科周術期感染管理教育施設としても認定され、日々の総合的研鑽による診療能力向上により皆様のお役に立てるよう日夜努力しております。

診療実績

診療科	主な臓器	主な疾患	2018	2019	2020	2021	2022
消化器 外科	食道・胃・十二指腸	食道疾患	0	1	0	0	0
		潰瘍穿孔	2	0	5	1	1
		胃癌・腫瘍性疾患	11	8	11	14	13
		その他	2	2	1	1	1
	小腸・大腸・肛門	大腸癌・腫瘍性疾患	52	31	35	46	48
		イレウス	4	10	4	11	11
		小腸・大腸穿孔	3	7	13	7	3
		急性虫垂炎	29	33	20	38	33
		痔核・痔瘻・肛門疾患	13	11	7	15	28
	肝・胆・脾	その他	2	10	2	5	9
		胆石・総胆管結石	45	61	46	53	69
		肝癌・胆囊癌・脾癌	29	27	19	34	17
	腹壁疾患・ヘルニア	急性肺炎・その他	2	5	4	1	2
		30	55	39	40	56	
	腹部外傷		1	4	2	3	6
	その他		7	37	25	7	7
呼吸器 外科	肺・縦隔	肺癌	6	6	5	3	0
		気胸・囊胞性肺疾患	7	2	4	1	8
		膿胸・縦隔疾患	2	2	0	0	3
		多汗症	2	2	4	0	0
		その他	0	0	0	2	0
	乳腺・甲状腺	乳癌・甲状腺癌	3	6	3	5	3
		胸部外傷	0	0	0	1	0
		その他	9	17	5	2	11
	14歳以下 小児	ヘルニア	32	24	22	32	22
		急性虫垂炎	64	50	49	57	56
		新生児・外傷・その他	35	27	18	22	23
計		392	438	343	401	430	
消化器外科	腹腔鏡下手術	220	264	207	249	279	
呼吸器外科	腹腔鏡下手術	19	12	14	3	12	
計		239	276	221	252	291	
緊急手術		132	100	110	134	112	
消化器外科		232	302	233	276	304	
呼吸器外科		29	35	21	14	25	
小児外科		131	101	89	111	101	

スタッフ紹介



院長
消化器・肝臓病名医センター長
岡本 好司
おかもと こうじ



統括部長
救命救急センター長
木戸川 秀生
きどがわ ひでお



外科主任部長
山吉 隆友
やまよし たかとも



呼吸器外科主任部長
救急科主任部長
井上 征雄
いのうえ まさお



小児外科主任部長
新山 新
しんやま しん



消化器外科主任部長
消化器・肝臓病センター長
野口 純也
のぐち じゅんや



外科部長
上原 智仁
うえはら としひと



外科部長
又吉 信貴
またよし のぶたか



外科部長
沖本 隆司
おきもと たかし



外科部長
大坪 一浩
おおつば かずひろ



外科副部長
福留 唯里加
ふくどう ゆりか



参与
伊藤 重彦
いとう しげひこ

消化器外科

診療科の紹介

消化器外科はスタッフ9名で診療を行なっております。スタッフには外科学会指導医・専門医、消化器外科学会指導医・専門医、内視鏡外科学会技術認定医、消化器病学会指導医・専門医、消化器内視鏡学会指導医・専門医、肝胆膵外科学会高度技能指導医、肝臓学会指導医・専門医、救急科指導医・専門医、外傷専門医、癌治療教育医・認定医等がそろっています。

取り扱う主な疾患

消化器外科としては胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆道癌、膀胱癌等の悪性疾患や胆石症、虫垂炎、鼠径ヘルニア、痔核等の良性疾患に対して積極的に手術に取り組んでいます。鏡視下手術も胆囊摘出のみならず、胃癌、大腸癌を中心に意欲的に取り組んでおり、現在では消化器に関する手術の8割以上を腹腔鏡下で行なっています。また、外科的治療が必要とならない消化器疾患に対しても当科において柔軟に対応出来る体制に努めています。特に消化器内視鏡学会指導医・専門医のもと、上下部内視鏡検査、胆膵内視鏡検査やそれに関連する処置等も積極的に行なっております。

当科の特徴

当院は救命救急センターがあるため、急性腹症、腹部外傷等を扱う頻度が高いのが特徴です。麻酔科や手術室の協力のもと、いつでも緊急手術が可能な体制をとっています。また治療に際しては、患者さんが思い描く最良の結果を得られるよう、各疾患の診療ガイドラインなども参考にしながら科学的根拠に基づいて手術や治療戦略を立てています。特に悪性疾患の患者さんには、不安を取り除くために、病気の程度や手術の内容、あるいは抗癌剤治療の内容や予定など、分かり易く説明を行なうことを心掛けています。

新病院では、手術室内に血管造影とCT検査が同室で出来るハイブリッドオペレーションルームが新設されました。これにより外傷や出血性疾患に対して、より迅速に対応可能となっています。

| スタッフ紹介 |



院長
消化器・肝臓病名医センター長
岡本 好司
おかもと こうじ



統括部長
救命救急センター長
木戸川 秀生
きどがわ ひでお



消化器外科主任部長
消化器・肝臓病センター長
野口 純也
のぐち じゅんや



外科主任部長
山吉 隆友
やまよし たかとも



外科部長
上原 智仁
うえはら としひと



外科部長
又吉 信貴
またよし のぶたか



外科部長
沖本 隆司
おきもと たかし



外科部長
大坪 一浩
おおつぼ かずひろ



外科副部長
福留 唯里加
ふくどめ ゆりか

呼吸器外科

診療科の紹介

呼吸器外科専攻認定医1名を軸に、消化器外科医や小児外科医と連携しながら、呼吸器外科症例の手術を行なっています。

診療科の特徴・強み

救命救急センターを併設している関係で、自然気胸や急性膿胸など緊急性を有する疾患が多く、胸部外傷を含む多発外傷における、胸腔ドレナージを含めた全身管理も行なっています。また、新病院移転に伴い新設されたハイブリッド手術室を使用して、術中触知困難な末梢肺病変に対するナビゲーション手術も近年導入しております。乳癌検診目的のマンモグラフィー検診も年々増加しています。肺がんや縦隔腫瘍に対しても、完全鏡視下手術も積極的に行なっています。

取り扱う主な疾患

- 重症外傷、胸部外傷
- 気胸、膿胸など急性期疾患
- 肺癌、縦隔腫瘍

| スタッフ紹介 |



呼吸器外科主任部長
救急科主任部長

井上 征雄

いのうえ まさお

小児外科

診療科の紹介

当院は、特色の一つに小児救急・小児総合医療センターを掲げています。そのため、北九州市のみならず近隣の市町村を含めた北九州医療圏の小児医療を担っている施設と言っても過言ではありません。そのため外傷や急性期疾患、虐待など、外科的処置の必要な子どもたちが大勢運ばれてきます。小児科医のみならず脳神経外科、形成外科、整形外科、泌尿器科と手を合わせて合同で診療に当たることが必要になります。その中で小児外科は、腹部や胸部の疾患に対応出来るように心がけています。

診療科の特徴・強み

現在常勤の小児外科医は1人のため、他科のように“小児外科”独立で診療に当たることは困難であり、小児科医と一緒に診断・診療を行い、成人外科医とグループになって手術を行なっているのが現状です。

また小児外科は2019年12月北九州市立八幡病院が新病院に移転するに当たり、正式に標榜出来るようになりました。さらに日本小児外科学会教育関連施設に認定されているため、大学へ手術応援を依頼することで高度先進医療手術を提供出来る状況にあると考えています。小児外科を目指したいという若手医師の研鑽の場になれるよう、また研修医が小児外科に少しでも興味を持ってもらえる場になるようにする責務があると思います。

一方、当院が現在産科を休診しているためにNICUが併設されていません。そのためにどうしても新生児疾患に関しては、他の総合病院の小児外科に頼らざるを得ない状況が続いている、今後の課題として捉えていく必要があります。

小児外科診療実績

	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011
急性虫垂炎	57	61	51	44	70	65	69	64	65	56	49	52
鼠径ヘルニア	19	27	21	21	28	28	21	30	48	31	16	28
手術合計	119	142	93	117	144	129	115	111	123	104	89	91
内視鏡（鎮静下）	47	44	50	34	57	44	31	25	7	0	0	0

スタッフ紹介



小児外科主任部長

新山 新

しんやま しん

取り扱う主な疾患

小児外科としては、16歳未満の手術を年間110件前後行なっています。2020年に新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、その影響から100件を下回る時期がありました。2022年は119件と例年並みの手術件数でした。小児(16歳未満)急性期疾患として最多は急性虫垂炎であり、平均50件程度で2022年は57件でした。全例腹腔鏡下、しかも単孔での手術で完遂しています。その次に多い疾患は外鼠径ヘルニアで、20件から30件程度手術を行なっています。

その他には、自然気胸や卵巣嚢腫・卵巣奇形腫、胆道拡張症手術、化学療法を行うための中心静脈カテーテル挿入術、などの手術症例があります

16歳未満の小児に限らず、16歳以上の重症心身障害児のお子さんたちに対する気管切開術、喉頭気管分離術、胃瘻造設術などを行なっています。

小児外科は、今後も小児に携わる外科として他科と連携を保ちながら、また教育関連施設として教育にも努めながら安全な診療を心がけていきます。

乳腺外科

診療科の紹介

乳腺外科は常勤医1名と非常勤医師1名の2名体制で診療を行なっています。乳腺疾患の診断・治療を幅広く行なっており、乳がんと診断された場合は手術療法・薬物療法・放射線療法の組み合わせにより、個々の患者さんに最適の治療を提案いたします。診療には医師のみならず看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・リハビリテーション技士など複数の職種によるチーム医療体制を整え患者さんが安心して治療を受けていただけるよう努めています。

取り扱う主な疾患

- 乳房に何らかの自覚症状がある(しこり・ひきつれ・分泌物など)
- 他院で乳がん検診を受診し「要精密検査」「要再検査」と判定された

当科の特徴

乳腺疾患の診断はマンモグラフィと乳房超音波検査が基本となります。マンモグラフィ装置はトモシンセシスという1mm毎の断層撮影が同時に撮れる装置を導入しており、従来の装置では正常乳腺に重なって発見や観察が難しかった病変が診断しやすくなっています。

院で異常を指摘された場合、検診で要精査となった場合など、上記の検査以外にCT・MRIなども含めて当院で精密検査が出来ますので遠慮せず受診してください。

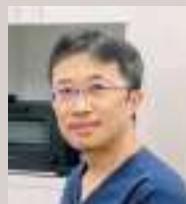


従来のマンモグラフィ撮影(2D撮影)に加え、最新のトモシンセシス機能(3Dマンモグラフィ)も搭載されています。撮影は女性技師が担当しています。

| スタッフ紹介 |



院長
消化器・肝臓病名譽センター長
岡本 好司
おかもと こうじ



呼吸器外科主任部長
救急科主任部長
井上 征雄
いのうえ まさお

(非常勤医師)
乳腺外科
田上 貴之
たのうえ たかゆき

脳神経外科

診療科の紹介

当院の脳神経外科は昭和53年の開設以来、救命救急センターの要として機能してきました。現在においても、北九州の地域医療の一翼を担うため、脳卒中および頭部外傷救急を中心とした救急診療に24時間体制で取り組んでおります。

現在、常勤医師3名と非常勤医師2名が在籍し診療に当たっております。脳梗塞に対する超急性期治療や緊急手術を要する脳卒中、頭部外傷に迅速に対応するために、救急救命センターでは初期対応から診断、治療に至るまで、24時間体制で専門医による診療を行なっております。

取り扱う主な疾患

- 脳卒中全般：脳梗塞に対する超急性期再開通療法、脳出血、くも膜下出血、未破裂脳動脈瘤、脳動静脈奇形、内頸動脈狭窄症、頭蓋内動脈狭窄・閉塞症、もやもや病など。
- 頭部外傷
- 片側顔面痙攣、三叉神経痛
- その他：脳腫瘍、水頭症など。

当科の特徴

■一次脳卒中センター(PSC)

一次脳卒中センターとして24時間365日脳卒中患者を受け入れる体制を整備しています。脳梗塞の超急性期にはrt-PAを用いた血栓溶解療法を施行し、機械的血栓回収の適応がある場合には産業医科大学と連携して治療を行なっています。

■脳血管手術、ハイブリッド手術

脳卒中の急性期治療から、脳卒中の発症を未然に予防すべく脳血管バイパス手術や脳動脈瘤クリッピング術、内頸動脈内膜剥離術などの脳血管の外科治療を安全に実施しています。MRIや最新鋭の256列のCT装置、3次元画像解析システムを活用して精度の高い術前シミュレーションを行なうことで、安全で効率的な手術のプランニングを行なっています。さらに脳血管造影検査やCT検査を手術中に実施することで、難易度の高い脳血管外科手術を安全に行なうことが可能なハイブリッド手術室を導入しています。

■術中神経モニタリング

手術中に運動神経や運動中枢、聴力、脳幹のモニタリングを行なうことにより安全な手術に努めています。

■片側顔面痙攣・三叉神経痛

片側の顔面の筋肉が自分の意志とは関係なく(不随意に)ピクピクと動く片側顔面痙攣の診断、ボトックス治療、根治治療である神経血管減圧術を行なうことができます。

また、発作的な顔面の激しい痛みが特徴である三叉神経痛に対しても薬物治療、神経血管減圧術を行なうことが可能です。

令和4年度 診療実績

脳動脈瘤クリッピング術	4件
頸動脈内膜剥離術	8件
脳動脈バイパス術	3件
頭蓋内血腫除去術(脳内)	5件
頭蓋内血腫除去術(硬膜下・外)	3件
脳室腹腔シャント術	6件
慢性硬膜下血腫	17件
その他	25件
脳卒中の入院患者数	141名

スタッフ紹介



脳神経外科主任部長
高松 聖史郎



脳神経外科副部長
佐藤 甲一朗



脳神経外科副部長
野村 得成

整形外科・リハビリテーション科

診療科の紹介-----

当院は、救命救急センターを併設していることから、重度外傷が多く、また小児救急・小児総合医療センターも併設していることから、小児の骨折症例が多いことが特徴といえます。このように当院の整形外科は救急医療とともに発展してきました。今後も、当院の使命である救命救急医療、小児救急医療、災害支援医療の一役割を担いながら、市立病院ならではの地域に根ざした、地域住民に貢献出来る医療を目指し診療を行なって参ります。

2019年からは新体制となり5名の医師が診療にあたっています。関節外科・手外科・外傷の各分野で専門性の高い医療を提供しております。またリハビリテーション科では、PT10名・OT5名・ST2名で、早期からのリハビリテーションを強化的に行なっております。

診療科の特徴-----

■関節外科

関節外科を専門とする医師が、膝および股関節の変形性関節症に対する関節温存手術(寛骨臼回転骨切り術、高位脛骨骨切り術)や人工関節置換術を行なっております。人工股関節置換術は、前外側アプローチによる最小侵襲手術(MIS)をバイオクリーンルームで行なっています。軽度の変形性膝関節症の場合は、単顆人工関節置換術を行ないます。また、麻酔科医の協力のもと、術後の痛みをできるだけ減らすよう努めています。

■手外科

日本手外科学会専門医が、橈骨遠位端骨折や手指・手根骨骨折などの手の外傷治療に加え、リウマチ手の機能再建、キーンベック病などの手根骨壊死、母指CM関節症などの変形性関節症、肘部管症候群や手根管症候群などの絞扼性末梢神経障害、腱鞘炎、デュピュイ特朗拘縮、良性の骨軟部腫瘍など幅広い手術を行ないます。

令和4年度 診療実績 -----

令和4年度は、712件の手術を行ない、右肩上がりに入院患者数、手術件数は増加しております。(手術症例一覧は2022.4.1～2023.3.31の一周年の集計)

分野	症例・検査・手術	数(年間)
人工関節	人工膝関節置換術	29
	人工股関節置換術	28
	人工骨頭挿入術(股)	56
	脛骨近位骨切り術	1
	第一足指外反症矯正手術	1
腫瘍	四肢軟部腫瘍摘出術	1
	骨腫瘍切除術	4
スポーツ	アキレス腱断裂手術	3
	関節鏡下半月板切除術	3
	関節鏡下半月板縫合術	2
	関節滑膜切除術(肩、股、膝)	3
手外科	手根管開放術	10
	神経移行術	7
	神経剥離術	3
	腱鞘切開術(関節鏡下によるものを含む)	18
	腱縫合術	5
	靭帯断裂形成手術 指(手、足)その他靭帯	1
	関節滑膜切除術(手、肘、指)	1
	デュピュイ特朗拘縮手術	1
	ガングリオン摘出術	3
	関節形成術(肩、股、膝、胸鎖、肘、手、足、肩鎖、指)	2
外傷・その他	骨折経皮的鋼線刺入固定術	47
	骨折観血的手術	271
	観血的整復固定術(インプラント周囲骨折に対するもの)	7
	骨内異物(挿入物を含む)除去術	88
	偽関節手術	2
	変形治癒骨折矯正手術	2
	化膿性又は結核性関節炎搔爬術	4
	関節脱臼観血的整復術	2
	関節内骨折観血的手術	30
	四肢切断術	3
上記以外	観血的関節授動術(肩、股、膝、胸鎖、肘、手、足、肩鎖、指)	2
	観血的関節固定術(肩、股、膝、胸鎖、肘、手、足、肩鎖、指)	5
	骨盤骨折観血的手術	1
	一時的創外固定骨折治療術	9
	デブリードマン	1
	寛骨臼運動術	1
	滑液膜摘出術	2
	筋内異物摘出術	1
	骨折非観血的整復術(大腿)	1
	骨部分切除術	2
合計		712

| スタッフ紹介 |



副院長
岡部 聰
おかべ さとし



整形外科主任部長
リハビリテーション科主任部長
目貫 邦隆
めぬき くにたか



整形外科部長
栗之丸 直朗
くりのまる なおあき



整形外科部長
越智 宣彰
おち のぶあき



整形外科副部長
大久保 友貴
おおくぼ ゆうき

形成外科

診療科の紹介

当院形成外科は、北九州市の形成外科としては最も早い昭和50年に開設され、顔面、四肢をはじめとした体表面の形態異常を整容的、機能的に改善する治療を行なっております。

専門医は4名(そのうち形成外科専門医3名)で診療を行なっています。

当科では形成外科全般にわたる診療を行なっていますが、とりわけ口唇口蓋治疔においては症例数が多く、県外からも患者さんが来られます。また、当院には救命救急センター、小児救急センターがあるため、顔面骨骨折を含む顔面外傷や、切断指再接合等の手の外傷、熱傷等を数多く担当しています。形成外科の専門的な対応をする外傷や緊急を要する外傷などの場合は、平日時間外や休日でも対応しております。

他施設から紹介をいただくことが多い疾患としては、口唇口蓋裂や多指症・合指症などの先天性形態異常、各種の皮膚皮下腫瘍、眼瞼下垂、褥瘡、難治性潰瘍などがあげられます。

取り扱う主な疾患

①表在性先天異常

口唇口蓋裂、眼瞼下垂、眼瞼内反症、小耳症、副耳、埋没耳などの顔面の形態異常、多指症・合指症などの四肢形態異常、臍ヘルニアなどの体幹部の形態異常にに対する治療を行なっています。

②皮膚、皮下、軟部腫瘍(良性、悪性)

皮膚腫瘍、皮下腫瘍、軟部腫瘍(良性、悪性)に対して手術やレーザーを用いた治療を行なっています。組織欠損のサイズや部位により、必要に応じて再建手術を行なうことがあります。

③顔面、手の外傷

顔面の皮膚、軟部組織損傷、骨折に対する処置、手術を行なっています。また手指の外傷(骨折、血管、神経、腱損傷)に対する外科的処置、再建手術を行なっています。また外傷や熱傷によって生じた傷跡や瘢痕拘縮に対して手術等の治療を行なうことで整容的、機能的に改善します。

④熱傷

小児を含めた熱傷患者に対して加療を行なっています。軟膏や創傷被覆材を用いた保存的加療や、必要に応じて手術治療(植皮術等)を行ないます。

⑤難治性潰瘍

糖尿病患者の足潰瘍や下肢の虚血による潰瘍、静脈の機能不全によっておこる、うっ滯性皮膚潰瘍に対して治療を行なっています。また褥瘡に対しても、軟膏療法、持続陰圧吸引療法を含めた保存的加療、皮弁手術を含めた外科的治療を行なっています。

⑥巻き爪治療(自費診療)

爪に専用の矯正器具である巻き爪マイスター[®]を装着する巻き爪治療を行なっています。自費診療になりますが、巻き爪による痛みに悩む患者さんが楽になり通って来られています。

⑦耳の矯正治療(自費診療)

生まれつきの耳の形態異常(折れ耳・絞扼耳・埋没耳など)に対して専用のイヤースプリントを用いた矯正治療を行なっています。

⑧その他

足趾の爪が食い込む陷入爪、加齢により目が開きにくくなる眼瞼下垂の治療を行なっています。また、Qスイッチルビーレーザーによる色素斑の治療、炭酸ガスレーザーや高周波ラジオ波メスを用いた小手術を行なっています。

まぶたがひきつる眼瞼痙攣、顔の片側がびくびくする顔面けいれんに対してボトックス注射による治療を行なっています。

ワキ汗(腋窩多汗症)にもボトックス注射による治療を行ないます。匂いが問題となる腋臭症(わきか)に対しては手術を行ないます。

当科の特徴

2020年よりVbeam II レーザーを導入し、毛細血管奇形(単純性血管腫)、乳児血管腫(苺状血管腫)、毛細血管拡張症といった皮膚良性血管病変の治療が可能となりました。小児科による内服治療との連携も行なっています。小児、成人を問わず治療が出来ますので、お問い合わせください。

口唇口蓋裂は、乳幼児期から青年期まで、各成長段階に必要な手術や治療を行なっていますが、中高年の患者さんで旧来の手術法による変形が残っている方に、現在の新しい手術方法で整容的機能的な修正を行ない、長年の悩みを解消する効果が得られています。里帰り出産で最初の口唇裂手術だけを希望される方や、すでに他院で手術を受けられており修正を希望される方も対応いたします。

令和4年度 診療実績

形成外科新患者数	763名	
形成外科入院患者数	328名(延べ人数ではない)	

形成外科手術件数	入院手術	全身麻酔	316件	合計 504件
		腰麻・伝達麻酔	29件	
		局所麻酔・その他	159件	
	外来手術	全身麻酔	2件	合計 1,110件
		腰麻・伝達麻酔	56件	
		局所麻酔・その他	1,052件	

区分	件 数						
	入院手術			外来手術			
	全身 麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	全身 麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	
I.外傷	64	19	59	1	44	762	949
II.先天異常	152		2			10	164
III.腫瘍	61	2	36	1	5	243	348
IV.癩痕・瘢痕拘縮・ケロイド	8		1			9	18
V.難治性潰瘍	17	4	8			6	35
VI.炎症・変性疾患	7	4	17		7	21	56
VII.美容(手術)							0
VIII.その他	7		36			1	44
計	316	29	159	2	56	1,052	1,614

スタッフ紹介



統括部長
形成外科主任部長
田崎 幸博
たさき ゆきひろ



形成外科部長
宗 雅
そう みやび



形成外科部長
藤原 洋平
ふじわら こうへい



形成外科部長
村山 真由美
むらやま まゆみ

内 科

診療科の紹介

外来は呼吸器・消化器・神経・腎臓・甲状腺・一般内科外来を設置しています。また、出来る限り救急患者の受け入れを行なっています。これからも、地域との連携を深め質の高い医療を提供出来るようスタッフ一同努力いたします。

取り扱う主な疾患

■呼吸器内科

呼吸器内科は常勤医3名と非常勤医6名の計9名で診療しています。当院の救急病院としての特色を活かし、新型コロナウイルス感染症を含む呼吸器感染症・気管支喘息・COPD(慢性閉塞性肺疾患)・間質性肺炎を中心に急性呼吸不全および慢性呼吸不全の急性増悪などの救急患者に対応しています。

肺癌診療に関しては、気管支鏡専門医の下、肺生検、縦隔リンパ節生検、胸腔鏡検査による肺癌診断を行なうと共に、抗がん剤治療・外科的治療に関しても積極的に取り組んでおります。放射線治療など当院で提供困難な治療が必要な場合は、北九州医療センターと連携しておりますのでご紹介いたします。

重症気管支喘息に対しては生物学的製剤による治療を行なうと共に、新たな治療法として保険収載された気管支熱形成術も行なっております。北九州市内で導入している施設は当院のみです。

慢性期管理では、慢性呼吸不全に対しての在宅酸素療法の導入に加えて、薬剤師・看護師・理学作業言語療法士・MSWを含めた多職種連携による外来・入院における呼吸器リハビリや、近年では呼吸器診療に欠かすことの出来ない吸入薬に対する患者指導も積極的に行なっています。また睡眠時無呼吸症候群に対しての終夜睡眠ポリグラフ検査およびCPAP療法の導入にも対応しております。

このように当院では急性期から慢性期まで幅広い呼吸器診療を心がけています。

■消化器内科

非常勤医5名にて消化器疾患の外来診療(平日午前中)を行なっています。上下部消化管内視鏡検査は消化器外科や非常勤医師の応援で行なっています。

■甲状腺

非常勤医師1名により、バセドウ病等の甲状腺疾患の外来診療を毎週月曜日に行なっています。

■脳神経内科

中枢神経(脳・脊髄)から、末梢神経、筋肉に至る様々な病気を対象にしています。頭痛、しびれ、ふるえ、めまい、筋力低下などの診断・治療のほか、神経救急疾患(脳血管障害、脳炎、髄膜炎、ギランバレー症候群など)や、パーキンソン病をはじめとした神経難病についても診療に当たっています。

■腎臓内科

月、火、木の週3回腎臓内科の外来診療をしています。
検診などで血尿や蛋白尿などの尿異常や、糖尿病性腎症、薬剤性腎障害、腎実質性高血圧、高尿酸血症など、腎臓病の保存期を中心治療を行なっています。当院では維持透析は行なっておりませんので、末期腎不全に至った患者さんは適切な医療機関へご紹介いたします。また、重症例や腎生検診断が必要な場合、産業医科大学腎臓内科と連携していますのでご紹介いたします。腎生検診断後の治療継続は、当院でも副腎皮質ホルモンや免疫抑制剤などによる治療が可能ですのでご紹介ください。

■膠原病

非常勤医師1名で毎週金曜日に外来診療を行なっています。関節リウマチをはじめとした膠原病を広く診療しています。多系統領域にまたがる疾患ですので、当院の複数の専門科と協力しながら診療を行なっています。重症例は、産業医大第一内科と連携して治療を行なっています。膠原病の病初期の判断は困難なことが多いのですが、この時期の治療的重要性も確認されています。疑わしい症例は、ご遠慮なくご紹介ください。

当科の特徴(強みや新たな取組み等)

主な検査・治療

■気管支鏡検査

気管・気管支病変および肺内病変に対しての気管支鏡検査を行なっています。ほぼ全例鎮静薬の投与下に検査を行なうことによって苦痛ができる限り与えないように心がけています。原則1泊2日の入院で検査を行なっています。

主に腫瘍性病変に対しての経気管支肺生検・擦過細胞診、びまん性肺疾患に対しての気管支肺胞洗浄検査などを行なっています。また適応症例に対しての気管支充填剤(EWS)の留置なども行なっており幅広い疾患に対応しています。オリンパス社製の最新ビデオスコープ(290シリーズ)および超音波システム(ガイドシース併用気管支内腔超音波断層法)が導入されており優れた診断精度での検査が提供できるよう努めています。

2019年末より新たにコンベックス走査式超音波気管支鏡(BF-UC290F)を導入したことにより縦隔リンパ節を含めた気管支周辺組織の超音波気管支鏡下吸引針生検(EBUS-TBNA)が実施可能となり、気管支鏡検査における適応疾患がさらに拡大しています。

■局所麻酔下胸腔鏡検査

一般的な胸水検査では診断をつけることが出来ない胸水に対して局所麻酔下での胸腔鏡検査を施行しています。胸腔内の観察および壁側胸膜の生検・細胞診を行なうことにより原因診断を行なっています。主に癌性胸膜炎・悪性胸膜中皮腫・結核性胸膜炎などの診断に有用です。

■気管支熱形成術(気管支サーモプラスティ)

重症気管支喘息の治療を目的とした気管支鏡下の手技です。高用量の吸入ステロイド薬および長時間作用型 β 2刺激薬の投与下でも喘息症状がコントロール困難な重症患者に対して症状緩和を目的として行ないます。

気管支鏡を通して電極付きカテーテルを気管支内に誘導し、高周波により気管支を65度に温めます。気管支全体を3つのブロックに分けて3週間以上の間隔を空けて計3回の入院治療により処置を行ないます。加熱処置により気管支平滑筋量を減少させ気管支の収縮を抑制することで気管支喘息発作が減少するとされています。少なくとも5年間の治療効果の持続が期待出来ます。

■終夜睡眠ポリグラフ検査

毎週水曜日に1泊2日の個室入院により終夜睡眠ポリグラフ検査を行なっています。睡眠時無呼吸などの睡眠障害に対する精密検査を行ないます。検査目的の紹介は内科外来にて随時受け付けています。

■腹部超音波

月曜日に、腹部エコー全般、体表エコー（頸部耳鼻科領域、甲状腺・副甲状腺、体表皮膚科領域）を行なっています。非侵襲的な検査の代表です。小児から高齢の患者まで、状態の悪い場合も含めて検査出来ます。また、北九州の超音波検査の普及や高度化にも力を入れております。各医院でのスタッフ養成についてもお尋ねください。

■神経伝導速度・筋電図

しびれや筋萎縮などの原因を調べるために、電気刺激を用いて神経のどこが障害されているかを調べることができます。手根管症候群や肘部管症候群などの末梢神経障害が良い適応です。また、筋肉に直接針を刺して筋萎縮の原因を調べる針筋電図も行なっています。

| スタッフ紹介 |



内科主任部長
末永 章人
すえなが あきひと



内科部長
森 雄亮
もり ゆうすけ



前田 幸則
まえだ ゆきのり



廣澤 利帆
ひろさわ りほ



宮崎 三枝子
みやざき みえこ

循環器内科

診療科の紹介 -----

当科では、すべての循環器疾患において「患者さんに科学的根拠に基づく質の高い最善の医療を安全に提供する」ことを第一とし診療を行なっております。当院には救命救急センターが併設されており、24時間救急患者を受け入れる体制も整っております。北九州地域の患者さん・医療機関の先生方のニーズに応え、信頼を得られるよう努力をして参ります。

取り扱う主な疾患 -----

- 心不全(急性・慢性)
- 冠動脈疾患(狭心症、心筋梗塞)
- 心筋疾患(肥大型心筋症、拡張型心筋症、二次性心筋症(心アミロイドーシス、心サルコイドーシス、ファブリー病))
- 弁膜症(大動脈弁狭窄・閉鎖不全症、僧帽弁狭窄・閉鎖不全症)
- 不整脈(心房細動、徐脈性・頻脈性不整脈、期外収縮)
- 大動脈疾患(胸部・腹部大動脈瘤、大動脈解離)
- 末梢動・静脈疾患(閉塞性動脈硬化症、腎動脈狭窄症、深部静脈血栓症)
- 肺循環疾患(急性肺血栓塞栓症、慢性血栓塞栓性肺高血圧症)
- 高血圧症(二次性高血圧症)や脂質異常症(家族性高コレステロール血症)

など

当科の特徴 -----

当科では、令和4年4月から常勤医2名、7月から1名が増員され合計3名の常勤医(3名とも循環器専門医)の診療体制となり、一時対応が困難となっておりました狭心症や心筋梗塞、末梢血管に対するカテーテル検査・治療や徐脈性不整脈に対するペースメーカー手術を再開しています。令和5年5月8日からは新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い病床利用制限も緩和されることから、循環器救急症例の受け入れを拡大することが出来るようになります。胸痛や労作時息切れ、突然の呼吸困難など、循環器疾患が疑われる患者さんがおられましたら、ご紹介賜りますようお願い申し上げます。

日本での心不全は75歳以上が7割超を占めており、超高齢社会の進行に伴い増加し続ける心不全(心不全パンデミックと呼ばれています)患者さんに対し、当院では併設された心不全センターにて生活習慣の見直し・改善や食事・運動療法、心臓保護を目的とした薬物療法、心臓リハビリテーションなど包括的な治療を行なっております。また必要に応じて心肺運動負荷試験(CPX)で運動強度を評価し

運動処方を行なっています。このような包括的治療にも関わらず心不全患者さんは残念ながら約2~3割の方が1年以内に再入院する(怠薬や塩分過剰摂取等にて)ことも分かっており、急性期医療機関の当院だけで解決できる課題ではなく、今後心不全患者さんの診療のための地域医療連携と心臓リハビリテーションを積極的に進めて参りますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和4年度 診療実績 -----

項目	総数(名)
外来受診総数 (1日あたり平均数)	2,810(11.6)
入院総数 (1日あたり平均数)	3,966(10.9)
心不全入院総数	156

項目	総数
心臓カテーテル検査	78
冠動脈カテーテル治療 ()は緊急症例	36(9)
ペースメーカー植え込み術 ()は緊急症例	9(6)
カテーテルアブレーション	1
植え込み型心電計	3
末梢動脈カテーテル治療	1
腎動脈ステント治療	0
心筋生検	2

項目	総単位数
心臓リハビリ件数 (1月あたり単位数)	2,131(178)

| スタッフ紹介 |



循環器内科主任部長
津田 有輝
つだ ゆき



循環器内科部長
岩垣 端礼
いわがき はれい



循環器内科副部長
中村 圭吾
なかむら けいご

小児総合医療センター

はじめに

小児総合医療センターと名前を変えてはや5年目となりました。多くの患者さんに受診していただき、外来・入院ともに右肩上がりの受診者数を誇り、日本一子育てしやすい町・北九州における役割の一端を担ってまいりました。しかし世の中を大きく変えたこの3年のコロナ禍において状況は大きく変わり小児の疾患の8割を占めていたあらゆる感染症は一時期ほぼなくなりました。代わりに不登校・摂食障害・ゲーム依存・自律神経症状などが激増し、コロナ禍が子どもたちに及ぼした影響は未だ計り知れず今後も長きにわたり我々小児科医が向き合っていかなければならない新しい問題も生まれました。

とはいっても我々に与えられた最大の任務である小児救急センターとしての役割は変わらず継続しております。令和3年度の北九州市の総外来患者数は108,817人(うち41,371人:38%)、時間外患者数は33,883人(うち19,165人:56%)、深夜帯患者数は6,717人(うち4,318人:64%)※()内は八幡病院小児救急センター受診者数、となっており北九州市の小児救急医療における当院の役割はコロナ禍

でも大いに発揮され更に貢献してまいりました。

小さな気づきからも発見される子ども虐待やマリトリートメントの総数は増加の一途をたどり、連日マスコミを賑わせる大きな社会問題となっています。若年妊娠、貧困、ハラスメント、親の離婚など多様な原因が子どもたちに与える影響は計り知れず、医療機関だけでは解決困難であり社会全体で取り組むべきものとして法医学・県警・検察・行政・児童相談所など他職種にわたる連携を強化し全国的にも評価される小児虐待拠点病院となりました。今後もその社会的な役割は大きく当院の特色として今後も大きく発展を遂げていかなければなりません。

北九州市立八幡病院・小児総合医療センターは今後とも全人的な小児医療を誠実に、常に謙虚に!継続していくこと。全ての子どもが健やかに成長し、子どもの権利が平等に保障され、そのご家族と共に幸福に生きることのできるよう医療として行なえるサービスを存分に提供し真摯に向き合っていく所存です。

| スタッフ紹介 |



小児総合医療センター長

天本 正乃

あまもと

まさの

小児総合医療センター

診療科の紹介

当センターは平日日中の一般診療および各種小児専門医療を行なう地域の、福岡県北九州地域、および近隣市町村地区における小児救急センターとして位置づけられています。北九州地区の広域の子どものあらゆる救急医療に対応するため、あらゆる他科と協力体制を有し、1次から3次までの救急患者を24時間365日受け入れる体制を維持しています。児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院でもあり、児童虐待の早期発見・早期介入と予防可能な事故の減少を目指します。

取り扱う主な疾患

小児一般：各種感染症、腸重積症、急性虫垂炎、熱性けいれん、身体各部の外傷など
アレルギー：食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、慢性蕁麻疹、薬剤アレルギーなど
腎臓：検尿異常、ネフローゼ症候群、腎炎、尿路感染症、先天性腎尿路異常、高血圧症、糖尿病など
膠原病：不明熱、関節炎など
循環器：川崎病、不整脈、先天性心疾患（カテーテル治療や手術が必要な症例は他院へ紹介しております）、心筋症など
内分泌：成長障害、甲状腺疾患など

当科の特徴（強みや新たな取組み等）

- ①県内随一の豊富な症例により経験を積んだ子どもの総合医が診療
- ②多彩な専門領域による迅速な診断と最良の治療の提供
臨床超音波、血液・腫瘍、神経、遺伝、発達、膠原病、循環器、アレルギー、腎臓 他
- ③24時間365日対応可能な小児救急センター
全ての子どもを受け入れます。
- ④虐待拠点病院としての役割と地域支援体制の充実
多機関連携による家族と子ども支援委員会の活動

令和4年度 診療実績

小児科年間外来数	46,064名	46,064名
小児科年間入院数	2,921名	2,921名
夜間・休日受診者数	23,223人	23,223人
夜間・休日入院者数	1,151人	1,151人
救急車台数	1,288台	1,288台

診療体制

小児科専門医数	21名
認定指導医数	17名
他施設からの受け入れ研修医数	19名

| スタッフ紹介 |



副院長
小児総合医療センター長
小児神経内科部長
天本 正乃
あまもと まさの



小児科主任部長
石橋 紳作
いしばし しんさく



小児科主任部長
今村 徳夫
いまむら のりお



小児血液・腫瘍内科主任部長
安井 昌博
やすい まさひろ



小児科主任部長
佐藤 哲司
さとう てつじ



小児科主任部長
高野 健一
たかの けんいち



小児血液・腫瘍内科部長
稻垣 二郎
いながき じろう



小児血液・腫瘍内科部長
興梠 雅彦
こうるき まさひこ



小児科部長
小児救急センター長
小林 匡
こばやし まさし



小児科部長
富田 芳江
とみた よしえ



小児科部長
富田 一郎
とみた いちろう



小児神経内科部長
池田 妙
いけだ たえ



小児科部長
小野 佳代
おの かよ



小児科部長
小児臨床超音波センター長
小野 友輔
おの ゆうすけ



小児科部長
小児集中治療室長
福政 宏司
ふくまさ ひろし



小児科部長
長嶺 伸治
ながみね しんじ



小児神経内科部長
八坂 龍廣
やさか たつひろ



小児神経内科部長
福井 香織
ふくい かおり



小児科部長
沖 刚
おき たけし



小児科部長
中野 珠菜
なかの たまな



小児科部長
中野 慎也
なかの しんや



小児血液・腫瘍内科部長
松石 登志哉
まついし としや



小児科部長
森吉 研輔
もりよし けんすけ



小児科部長
藤崎 徹
ふじさき とおる



小児科
松永 千恵
まつなが ちえ



小児科
本間 一樹
ほんま かずき



小児科
藤川 紘志朗
ふじかわ こうしろう



小児科
竹井 文哉
たけい ふみや



小児科
長井 孝太
ながい こうた



小児神経内科(非常勤)
村上 知恵
むらかみ ちえ

小児血液・腫瘍内科

診療科の紹介 (小児がんについて)-----

小児がんの治療成績は、化学療法(抗がん剤、免疫抑制剤、生物学的製剤)、外科的手術、放射線療法からなる集学的治療の発展に伴って、過去40年間に劇的に向上し、現在では約80%の患者さんが治癒するようになりました。その一方で、標準的治療では、治癒の得られない再発・難治性の患者さんも一定の割合で存在します。このため、標準リスクの患者さんには安全で確実な治療が、難治性の患者さんには治癒の可能性を少しでも上げるために、造血細胞移植など専門性の高い治療が求められています。

取り扱う主な疾患 -----

■ 血液腫瘍

急性リンパ性白血病、急性骨髓性白血病、慢性骨髓性白血病、骨髓異形成症候群、悪性リンパ腫などに対する化学療法を行なっています。

■ その他の血液疾患

小児がんの他に、再生不良性貧血や溶血性貧血など「赤血球の異常」、好中球減少症など「白血球の異常」、血小板減少症など「血小板の異常」、「凝固因子の異常」といった、非腫瘍性血液疾患の診療を行なっています。

■ 固形腫瘍

脳腫瘍以外の固形腫瘍に対する化学療法も行なっています。より専門的な手術や放射線治療が必要な場合は、当院小児外科および関連診療科、診療協力施設と連携しながら治療を行なっています。

当科の特徴 -----

当院小児科では、2018年4月に小児がんを専門的に診療する、小児血液腫瘍・造血細胞移植センターを立ち上げ、2021年4月より、小児血液・腫瘍内科を榜榜しました。

当科は日本小児血液・がん学会および日本血液学会の専門医研修施設として認定されており、同学会や日本造血・免疫細胞療法学会(旧:日本造血細胞移植学会)の専門医や指導医資格をもつ3名の小児科医師を中心に診療を行なっています。また、北九州市では2施設しかない日本輸血・細胞治療学会の認定医制度指定施設のひとつとして認定されています。2022年12月末には、日本骨髄バンクの非血縁者間骨髄採取施設の認定を受けました。また、日本骨髄バンクおよび臍帯血バンクを介した非血縁者間骨髄・末梢血幹細胞移植、非血縁者間臍帯血移植の施設認定も日本骨髄バンクおよび日本造血・免疫細胞療法学会から認定されました。これにより造血細胞移植が必要な患者さんの治療選択肢が拡がりました。

小児がんは致死的疾患であると同時に希少疾患であり、治療法に関しては標準治療として確立されている治療法や患者さんへの地益が大きいと考えられる臨床試験での治療など、疾患の種類や病期によって最も適切な治療法を選択しています。上述のような再発・難

治性の患者さんに対しては、適応を慎重に判断したうえで造血細胞移植を行なっています。

小児がんの患者さんは、抗がん剤や免疫抑制剤の治療により容易に免疫不全状態に陥り、重要感染症を発症するリスクを負っていますが、当センターでは小児科病棟内の10床の個室からなる清潔度の高いprotective environment(防護環境、慣例的にクリーンエリアと呼んでいます)内で化学療法を行なっています。そのうち2床は、白血球数や免疫機能が極度に低下する造血細胞移植に対応した規格になっています。

小児がんの治療は長期にわたり、様々な身体的・精神的苦痛や社会的困難が伴います。当科では、患者さんとご家族の負担を少しでも軽減出来るよう、医師、看護師だけではなく薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、臨床工学技士、管理栄養士、社会福祉士、保育士、臨床心理士、子ども療養支援士、院内学級講師、その他の多くのスタッフが協力してチーム医療を行なっています。

令和4年度 診療実績 -----

※小児血液腫瘍・造血細胞移植に関わる実績

2019年度は、14例の新規患者さんを含む19人の患者さんに化学療法を行ないませんでした。そのうち、3人の再発・難治性の白血病患者さんに血縁ドナーから末梢血幹細胞移植を行ないました。

2021年度は、血縁ドナーの母親からHLA半合致骨髄移植を当院で初めて行ないました。

年度	化学療法、免疫抑制療法、手術を行なった新規診断症例数
2017年度	急性リンパ性白血病 1例
	急性骨髓性白血病 2例
	急性リンパ性白血病 3例
	悪性リンパ腫 1例
	再生不良性貧血 1例
2018年度	急性リンパ性白血病 8例
	急性骨髓性白血病 1例
	固形腫瘍(腎芽腫・卵黄囊腫・未熟奇形腫) 3例
	ランゲルハンス細胞組織球症 1例
	再生不良性貧血 1例
2019年度	急性リンパ性白血病 1例
	急性骨髓性白血病 1例
	固形腫瘍(神経芽腫・成熟奇形腫) 2例
	急性リンパ性白血病 2例
	固形腫瘍(膀胱充実性偽乳頭状腫瘍・未熟奇形腫) 2例
2020年度	ランゲルハンス細胞組織球症 1例
	血友病A・B 11例
	ファン・ウィルブランド病 4例
	急性リンパ性白血病 1例
	固形腫瘍(滑膜肉腫・卵黄囊腫) 2例
2021年度	ランゲルハンス細胞組織球症 1例
	血友病A・B 11例
	ファン・ウィルブランド病 4例
	急性リンパ性白血病 1例
	固形腫瘍(滑膜肉腫・卵黄囊腫) 2例
2022年度	ランゲルハンス細胞組織球症 1例
	悪性リンパ腫(皮膚CD8陽性T細胞リンパ腫) 1例

| スタッフ紹介 |



小児血液・腫瘍内科主任部長
安井 昌博
やすい まさひろ



小児血液・腫瘍内科部長
佐藤 哲司
さとう てつじ



小児血液・腫瘍内科部長
稲垣 二郎
いながき じろう



小児血液・腫瘍内科部長
興梠 雅彦
こうろき まさひこ



小児血液・腫瘍内科部長
松石 登志哉
まついし としや

小児神経内科

診療科の紹介

小児神経内科はてんかんを始めとする発作性疾患や筋ジストロフィーや脊髄性筋萎縮症などの神經筋疾患、また発達遅滞や自律神経失調症などにも関わり、子どもの発達に関わる広い範囲の医療を提供する分野です。また、脳炎・脳症や先天性代謝異常症の急性発症など、急性疾患にも対応することも多く、急性期から慢性期に対応することが求められます。現在、小児神経専門医、臨床遺伝専門医も揃い、幅広い疾患に対応することが可能になりました。

取り扱う主な疾患

- ①発達障害(精神遅滞・自閉症・ADHD・学習障害など)
- ②発作性疾患(主にてんかん、熱性けいれんなど)
- ③先天代謝異常・染色体異常
- ④脳性麻痺
- ⑤中枢神経感染症(脳炎・脳症・髄膜炎など)
- ⑥筋疾患(ジストロフィー・脊髄性筋萎縮症他)
- ⑦頭部外傷
- ⑧脊髄疾患・末梢神経疾患
- ⑨脳血管障害

当科の特徴

近年、遺伝的な評価やカウンセリングが必要とされる疾患が多くなりましたが、当院では臨床遺伝専門医による診療が可能となり、侵襲的な検査の前に遺伝的な診断も選択肢として相談可能になりました。

また、当院の救急は1次から3次まで対応しており、脳炎・脳症も初発時から集中管理まで一病院で行えます。今年度からビデオ脳波でモニタリングしながら脳炎・脳症の集中治療を行なえるようになりました。COVID-19の脳症やウイルス性脳炎、けいれん重積型二相性急性脳症などの重症例で頻回な非けいれん性重積状態にも対応出来るようになりました。また小児神経内科で誘発電位が行なえるようになり、麻痺や感覚障害に対して伝導速度検査や重症筋無力症の反復筋電図なども細かくフォローすることが可能になりました。

なお、当院は小児神経専門医認定施設として認定されており、脳波や誘発電位は研修中に手技取得可能で、地域に貢献出来る小児神経科医の育成に取り組んでいます。

| スタッフ紹介 |



副院長
小児神経内科主任部長
天本 正乃
あまもと まさの



小児神経内科部長
池田 妙
いいだ たえ



小児神経内科部長
八坂 龍広
やさか たつひろ



小児神経内科部長
福井 香織
ふくい かおり



小児神経内科(非常勤)
村上 知恵
むらかみ ちえ

泌尿器科

診療科の紹介-----

泌尿器科悪性腫瘍、良性疾患に対する診療を行なっています。とくに悪性腫瘍に対する手術治療・全身癌化学療法では、新しい知見を取り入れ、最新の治療が行なえるよう心がけております。また、罹患頻度の高い尿路結石に対しては、迅速に手術治療を行ない、できるだけ早く患者さんの苦痛を和らげるよう努めています。当院の特色である小児診療も積極的に行なっており、小児泌尿器科領域での外科手術を施行しています。泌尿器科救急疾患にも24時間迅速に対応します。

2019年4月より、常勤の泌尿器科医が1名増員となり、2名体制となりました。より柔軟な対応が可能となり、手術件数も順調に増加しています。種々の疾患に対し、当院で診断・治療・フォローアップまで完結できるように努め、地域住民の方々のニーズに応えられるような医療を展開してまいります。

診療科の特徴(強みや新たな取組み等)-----

■内視鏡的デフラックス注入療法

膀胱尿管逆流症に対する新しい手術として、内視鏡的デフラックス注入療法を2021年6月より開始しました。少しずつ症例が増え、20例ほど施行致しましたが、全例良好な治療経過です。症例数は福岡県でもトップクラスです。従来の開腹手術と比較し低侵襲な手術であり、患者さんの満足度も高いと考えます。

■尿路結石治療

尿路結石に対して、ESWL(体外衝撃波結石破碎術)とTUL(経尿道的結石碎石術)を積極的に行っています。できるだけお待たせすることなく、迅速に行なうよう心がけています。

■前立腺癌骨転移に対する放射線医薬品治療

前立腺癌骨転移に対する放射線医薬品治療(223-Ra(商品名:ゾーフィゴ))を行なっています。福岡県内でも上位の症例数を経験しております。

取り扱う主な対象疾患-----

■泌尿器科悪性疾患

腎癌、膀胱癌、腎孟尿管癌、前立腺癌、精巣腫瘍、副腎癌、等

■泌尿器科良性疾患

尿路結石症、前立腺肥大症、過活動膀胱、尿路感染症、等

■小児泌尿器疾患

停留精巣、先天性水腎症、膀胱尿管逆流症、包茎、等

■泌尿器救急疾患

尿路外傷、尿管結石嵌頓、腎後性腎不全、尿閉、膀胱タンポナーデ、精巣捻転、嵌頓包茎、等

令和4年度 診療実績(手術・検査数等)-----

外来患者数	3,891人
入院患者数	262人
(平均入院患者数9.85人/日、平均在院日数12.7日)	
手術件数	159件
ESWL件数	110例

| スタッフ紹介 |



泌尿器科主任部長
松本 博臣

まつもと ひろおみ



泌尿器科部長
山崎 豪介

やまさき こうすけ

皮膚科

診療科の紹介

月曜から金曜までの週5日、午前8時30分から午前11時までが受付時間となります。今年度より二診体制とし、患者さんの待ち時間の短縮に努めています。

紹介患者さんにつきましては、月火金は鶴田、水は村尾(非常勤)、木は古河が担当いたします(木曜日は事前予約のみ鶴田指名でのご紹介も承ります)。紹介状をご持参いただければ予約なしでも診療いたします。Faxや電話で事前にご予約いただけた場合は、来院前に事務手続きや前治療の把握等を行ない、優先して診療を行なうようにしております。

取り扱う主な疾患

皮膚疾患全般を取り扱っています。水虫、イボ、ニキビをはじめ、重症の乾癬やアトピー性皮膚炎、蕁麻疹、化膿性汗腺炎に対する生物学的製剤治療、免疫抑制剤治療、皮膚腫瘍の診断・局所麻酔手術も行なっています。

当科の特徴

皮膚科で大切なのは、「視診(ししん：皮膚を観察し性状を把握する診察方法です。)」をしっかりと行なうことだと考えています。当科では、基本となる問診および視診を十分に行ない、必要に応じて皮膚生検(ひふせいけん：病変の一部を採取し病理検査を行なう)や血液検査、画像検査などの各種検査を提案し、なるべく正確な診断が得られるように努力しています。また必要に応じて他科の医師と緊密に連携し、質の高い医療を行なっていくことを心がけています。

当院は乾癬の生物学的製剤使用承認施設です。昨年も北九州市の内外から多くの乾癬患者さんに来院いただきました。乾癬には生物学的製剤を含めた様々な治療法があり、一人ひとりの乾癬の重症度、生活への影響を考慮して適切な治療法を提案するようになります。生物学的製剤の中には自宅で注射出来る製剤があります。当科では在宅自己注射を積極的に導入し、看護師や医師による注射指導、門前薬局との連携を密に行ない、安心して治療が出来るようサポートしています。

昨年は最新型の限局型光線機器を導入し、乾癬や掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、白斑、円形脱毛症等で施行しています。小児の患者さんにも十分な説明同意の上で実施しています。

今年の新たな取り組みとして、SADBE(サドベ)による局所免疫治療を開始しました。難治性の円形脱毛症(慢性期)や尋常性疣瘡に自費治療で行なっています。感作や処置は1回1,000円(税抜)で、円形脱毛症の評価時(月1回、ダーモスコピー等実施)は1回2,000円とされています(広範囲の場合金額変更あり)。難治の患者さんがおられましたら、ぜひご紹介ください。

令和4年度 診療実績

局所麻酔手術件数（皮膚生検を含む）	221件
乾癬に対する生物学的製剤	37人
アトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤	55人
光線治療	約30件／月

スタッフ紹介



皮膚科主任部長
鶴田 紀子
つるた ゆりこ



皮膚科副部長
古河 裕紀子
ふるかわ ゆきこ



皮膚科
村尾 玲
むらお れい

眼 科

診療科の紹介 -----

まだまだ、コロナの感染はおさまりませんが、感染対策を徹底的にやりながら、診療を続けています。眼科医1名、視能訓練士1名体制であり、患者さんにはご迷惑をおかけすることもありますが、一人ひとりの患者さんと大事に接することを心がけています。

患者さんのことをよく把握している3人の看護師が交替でまた、医療クラークもついてくれるので、良い診療体制が出来ていると思っています。

診療科の特徴 -----

手術は入院にて原則、火曜日の終日と水曜日の午後に行なっています。

■白内障手術は1泊2日から3泊4日の入院

■硝子体手術は4泊5日から7泊8日の入院

スタッフは少人数ですが、丁寧な診療を心がけています。全身疾患をお持ちの方も内科や外科に相談しながら、安心して手術を施行しています。

取り扱う主な疾患 -----

■白内障、緑内障、糖尿病網膜症、その他の眼底疾患

■他科との関連では、外傷、なかでも眼窩底骨折による眼球運動障害
や眼底疾患

■ステロイド治療中のお子さんなど

令和4年度 診療実績 -----

白内障手術	101件
硝子体手術	10件

(増殖糖尿病網膜症、網膜前膜、眼内レンズ落下、前部硝子体切除など)



眼科主任部長

板家 佳子

いたや よしこ

精神科

診療科の紹介 -----

八幡病院精神科では広く精神科一般的な病気を診ています。妄想や幻覚で苦しんでいる人や気持ちが落ち込んでつらい人、職場の悩みを抱えて体調不良に悩む人、夜眠れなくて困っている人等、症状やその程度は様々です。

病名としては統合失調症、うつ病、不安症、不眠症、適応障害、認知症などが主ですが、一口に精神科の病気といっても一人ひとり症状も治療法も違ってきます。したがってその人に一番良い治療法を目指しています。

また、外来患者さんだけでなく、当病院に入院中の他科患者さんの心のケアにもあたっています。なお当院には精神科の病床はありませんので、入院が必要な場合は他の精神科病院を紹介しています。

以上午前中の精神科外来、予約制の物忘れ外来、午後からの他科入院患者さんの精神面のケア(コンサルテーション・リエゾン精神医学)を主な業務としています。

外来では予約がなくても診ていますので受診者数は日によってばらつきがあります。そのため場合によっては思いがけずお待たせすることもあります。

取り扱う主な疾患 -----

統合失調症、うつ病、双極性障害、不安症、不眠症、適応障害、など。

当科の特徴 -----

令和2年6月もの忘れ外来を始めました。当科での心理検査と放射線科の画像検査をもとに、早期に認知症の診断・治療が出来るよう努めています。下記に認知症の画像診断を紹介しています。

■VSRAD検査

MRI検査です。早期アルツハイマー病では、脳萎縮が海馬で著明であるため、脳全体と海馬の萎縮の程度を一定値(ボクセル値)へ変換した後、健常人のデータベースを対照として解析することで、海馬領域が特に障害されていないかを判定します。身体的侵襲なしに比較的手軽に出来るようになりました。早期アルツハイマー型認知症の診断に役立ちます。

■脳血流シンチ検査

半減期の短い放射線同位元素で標識した薬剤を静脈注射して行なう検査です。脳の血流分布の異常を調べることでMRIだけでは判断出来ない認知症の鑑別に役立ちます。

■ダットスキャン検査

検査薬を静脈注射後撮像し脳内のドバミン神経の異常を評価します。レビー小体型認知症やパーキンソン病の診断に威力を発揮します。

令和4年度 診療実績 -----

初診患者数	132人
再診患者数	2,697人
入院患者のコンサルテーション	507人
紹介患者	74人
逆紹介患者	51人

| 医師紹介 |



精神科主任部長

白石 康子

しらいし やすこ

婦人科

診療科の紹介

婦人科では幼児期・思春期から更年期・老年期に至るすべての女性のヘルスケアを行なっています。女性特有の症状でお悩みになっている方が、身体的にも精神的にも少しでも楽になれるよう、専門性を生かした診療を心がけております。

今年度より、常勤医師1名で診療にあたっています。主に外来での診療を行なっておりますが、レーザー蒸散術や婦人科の小手術も入院・外来両方で行なっております。なお、開腹や腹腔鏡などの手術は行なっておりませんので、当科での精密検査でそのような手術が必要と判断した場合は手術加療可能な施設への紹介を行なっております。

また、外来での待ち時間短縮のため、完全予約制で行なっています。

外来新患受診の際は、かかりつけのクリニックや病院・医院(産婦人科の必要はありません。)で相談され、担当医の先生に紹介状の作成と受診予約(当院診療連携室経由)を取って来院されてください。特にかかりつけがない場合でも受診可能ですが、特定医療費(7,700円)が別途かかりますので、ご了承ください。

取り扱う主な疾患

- 卵巣腫瘍・子宮筋腫などの良性疾患
- 子宮頸部異形成(軽度～高度)
- 無月経・月経周期異常
- 月経困難症・月経随伴症候群、月経前症候群
- 更年期症候群
- 不妊症検査
- 性感染症
- 子宮脱、膀胱脱などの骨盤臓器脱
- 不正出血
- バルトリン腺嚢胞
- 性虐待・性被害

当科の特徴

■婦人科内分泌および女性のヘルスケア

原発性および続発性無月経、月経不順や過多月経、月経困難症、月経前症候群の診断と治療、不妊症・不育症の検査ならびに更年期障害、不正出血などの治療を行ないます。

月経困難症や過多月経に対しては、その病状を評価した上でホルモン療法や漢方療法、対症療法を提示させていただき、希望に沿った治療を積極的に行なっています。

更年期特有の症状に関しても、問診や診察を行なった上で、治療方法を提示しています。

■子宮がん検診で精密検査が必要となった際の対応も行なっています。

子宮頸部中等度異形成に対して侵襲の少ないレーザー蒸散術(入院)を行なっています。

外陰部の悩みについても適宜対応しており、バルトリン腺嚢胞に対しては開窓術(主に外来)などを行なっています。

■検査

- ・超音波断層法
- ・ドブラー法
- ・CT診断
- ・MRI診断
- ・コルポスコープ
- ・細胞診
- ・組織診
- ・腫瘍マーカー
- ・子宮卵管造影検査
- ・内分泌検査
- ・骨塩量測定

■治療実績

- ・月経困難症・月経前症候群に対する薬物療法
- ・子宮頸部中等度異形成に対するレーザー蒸散術
- ・子宮頸管ポリープ摘出術
- ・バルトリン腺嚢胞に対する開窓術
- ・尖圭コンジローマに対するレーザー蒸散術、冷凍凝固、薬物治療
- ・骨盤臓器脱に対する非観血的整復法
- ・子宮筋腫・子宮内膜症に対する各種ホルモン療法(ミレーナ留置も含む)
- ・更年期障害に対するホルモン補充療法・漢方療法
- ・不妊症に対する諸検査(子宮卵管造影検査も含む)や治療
- ・ヘルペス・クラミジアなどの性感染症の診断と治療

| スタッフ紹介 |



婦人科主任部長
今福 雅子

いまふく やすこ

耳鼻咽喉科

診療科の紹介

当科は外来診療と、手術および急性疾患の治療を中心に入院加療を行なっています。外来診療は、中耳炎、慢性副鼻腔炎等の一般的耳鼻咽喉科疾患の治療から、幼児難聴の診断、めまいの診断治療、頭頸部腫瘍(疑い)の検査と診断など、幅広く対処しています。

午前中は常勤医師1名体制で一般外来診療を行なっています。午後は手術および予約診で前庭機能検査(めまい検査)ファイバー等の検査、外来手術(ポリポトミー、鼓膜チュービング、生検等)、入院患者さんの診察等を行なっています。咽喉頭や頸部等の急性炎症やめまい、突発性難聴、顔面神経麻痺等を入院の上、精査治療しています。また、声帯ポリープ、副鼻腔炎、扁桃炎等幅広く手術を行なっています。

取り扱う主な疾患

外来では中耳炎、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、扁桃炎、咽頭炎などの耳鼻咽喉科一般疾患を取り扱っています。また、急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、突発性難聴、内耳性めまい、顔面神経麻痺、声帯ポリープなどの入院管理が必要な耳鼻科疾患や耳鼻科手術に付随するものに対応しています。

当科の特徴

小児科領域に強い当院の特性を生かし、耳鼻科症状を有する小児については、小児科に加え耳鼻科でも診断、検査、治療、手術を行なっています。新生児スクリーニング検査で、聴力に問題があることが疑われる場合、ABR検査を含めた聴覚精密検査を行ない、疑わしい場合は、早期に北九州市立総合療育センターなどの療育機関と連携し、早期の補聴器装用による聴覚の問題解決または軽減を図っています。

手術については、小児の反復性扁桃炎、睡眠時無呼吸症候群に対し、積極的に手術を行なっております。また、当院形成外科で口唇口蓋裂の手術を行なう際、合併する耳管機能不全、さらには慢性滲出性中耳炎に対し、乳児期の鼓膜チューブ挿入手術を行なっています。言語発達の遅れが疑われる幼小児に対し、鼻咽腔ファイバーによる鼻咽腔閉鎖能の検査を行ない、当院形成外科および療育センターとの連携で、適切な治療方針を決定しています。

| スタッフ紹介 |



耳鼻咽喉科主任部長

麻生 裕明

あそう

ひろあき

放射線科

診療科の紹介

当科は現在放射線診断専門医2名で画像診断とIVR(インターベンショナルラジオロジー)を中心に診療を行なっています。

取り扱う主な疾患

- 画像診断の対象となる疾患一般…腫瘍性疾患、炎症性疾患、先天性疾患、外傷など
- 肝細胞癌を始めとした悪性腫瘍に対する化学動注塞栓療法
- 乳癌など悪性腫瘍に対する画像ガイド下針生検

当科の特徴

画像診断は、CT検査、MRI検査、RI検査、マンモグラフィなどを行なっています。CT検査では、高速ヘリカルスキャンにより鮮明で詳細な画像が得られます。またワークステーションにより冠動脈や腎動脈の狭窄、脳動脈瘤や大動脈瘤、骨折等の3D画像を容易に得ることが出来ます。RI検査では、SPECT画像を、MRI検査では、MR angio画像を得ることが出来ます。CT、MRI、RIに関しては予約制で、他院からの依頼も受けています。

IVRは血管系では一般的なTAEやPTAから比較的稀なB-RTO、リザーバー留置術まで、非血管系では、PTGBD、PTCDや膿瘍ドレナージ、生検、胆道ステント挿入等を実施しています。

令和4年度 診療実績

CT読影件数	9,954件
MRI読影件数	3,042件
RI読影件数	200件
IVR (当科単独施行件数)	21件

| スタッフ紹介 |



放射線科主任部長
今福 義博
いまふく よしひろ



放射線科部長
神崎 修一
こうざき しゅういち

麻酔科

診療科の紹介

麻酔科は、日本麻酔科学会認定麻酔指導医/日本専門医機構麻酔科専門医の資格を持つ2名を含む3名の常勤医と非常勤の先生方、それに産業医科大学麻酔学教室の先生方にも協力をいただきながら、手術麻酔(周術期管理)と外来診療を行なっています。

外来は、週2日(月・木 午前)にペインクリニック(痛みの外来)として診療しています。

取り扱う主な疾患

手術麻酔：狭義の局所麻酔症例を除く、全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔などによる手術のほぼ全例を麻酔科で担当させていただいている。

外来診療：帯状疱疹関連痛、三叉神経痛、頸肩腕痛、腰下肢痛、頭痛、遷延した術後痛、癌性疼痛、複合性局所疼痛症候群などの様々な痛みの治療に加え、痛みを伴わない末梢性顔面神経麻痺、突発性難聴、四肢の血行障害なども関係各科と協力して治療にあたっています。

当科の特徴

当院は、小児(乳幼児)から高齢者まで、積極的に救急医療に取り組んでいます。そのため私たち麻酔科も、24時間365日、緊急手術も含めたあらゆる症例に対して『より安全に。より快適に。』をモットーとし、手術に関わる様々なスタッフと協力して周術期管理に取り組んでいます。

新病院移転とともに整備された先進の各種医療機器やモニタリングシステムを駆使して安全な麻酔を担保するとともに、手術を受けられる方の快適性をも追求し、日々研鑽努力しています。すべての患者さんに安心して手術をお受けいただくことが私たちの目標です。

麻酔業務以外にも各科と協力して疼痛管理や疾患治療、救急対応に関わっています。

令和4年度 診療実績(手術・検査数等)

令和4年度の手術室における全手術件数 2,037

そのうち

麻酔科管理手術件数 1,361

麻酔科管理麻醉件数 1,342(*複数科による同時手術があるため)

全身麻醉件数 1,312

手術室においては麻酔以外にも、重症患者に対するMAC(Monitored Anesthesia Care)や小児穿刺困難症例への薬剤髄腔内投与なども行なっています。

| スタッフ紹介 |



麻酔科主任部長
集中治療室長
外来担当医
金色 正広
かないろ まさひろ



麻酔科主任部長
手術室長
齋藤 将隆
さいとう まさたか



麻酔科部長
齋藤 美保
さいとう みほ

救急科

診療科の紹介 -----

救急科医師を中心に外科系、内科系の救命救急センター当番医師の協力を仰ぎながら、救急診療にあたっています。日中の救急診療は、救急科専門医2名、後期專攻医1名、救急科研修医2名の5名で行なっています。普段の救急診療のみならず、救急救命士の指導、地域メディカルコントロール体制への関与に従事しています。

取り扱う主な疾患 -----

- 重症外傷、多発外傷
- 院外心肺停止
- 消化管出血

当科の特徴 -----

外科を中心に、整形外科、脳神経外科、形成外科とも連携しながら、北九州市西部地域の様々な外傷疾患に対応しています。

免震構造の屋上ヘリポートを有し、北九州地域で出発した広域搬送事案において、消防防災ヘリやドクターへリの受入を積極的に行なっています。

北九州地域の災害基幹病院として、DMAT(災害医療派遣チーム)を有して、日頃から活動しています。

| スタッフ紹介 |



救急科主任部長
呼吸器外科主任部長
井上 征雄
いのうえ まさお



救急科部長
平松 俊紀
ひらまつ としき



救急科
岡本 健司
おかもと けんじ

歯科

診療科の紹介

歯科は完全予約制で診療を行なっています。そのため初診の患者さんも受診日・来院時間をあらかじめ予約していただく必要があります。交通事故などによる急患等がない限り、診療の開始時間が大幅に遅れる事はまずありません。円滑に診療をすすめるため患者さんには無断キャンセルをしないこと、予約時間に遅れるときは電話してもらうことをお願いしています。歯科医師1名・歯科衛生士1名の小規模の診療体制ですので、ご協力をよろしくお願ひいたします。現在は1日10名、平均約30分間の診療を行なっており、病院内の歯科なので70~80歳台の高齢者・有病者が大半をしめています。

取り扱う主な疾患

内科的疾患のある方の歯科治療や手術前後の口腔管理、入院患者の口腔ケアを積極的にとり組んでいます。また当初から痛みの少ない治療を心がけているので、治療開始前の局所麻酔は必ず表面麻酔を塗布したあと痛みを感じないような手技で麻酔を行ないます。

また歯の根の治療(根管治療と言います)には特に重点をおいており、エックス線写真などで不十分な根管治療を見つけたら冠をかぶせたり義歯を入れたりする前に、患者さんの了承を得て再治療をすすめるようにしています。

当科の特徴

診療内容は一般的な個人病院と同じです。口腔外科・矯正歯科・小児歯科等は標榜していません。インプラント・顎関節症・歯科治療の経験のない子どもさんは九州歯科大学附属病院等を紹介しています。その他保険外の診療として、歯のホワイトニング(漂白)・白い歯の装着(ポーセレン・ジルコニアなど)の症例を取り扱っています。

| スタッフ紹介 |



歯科主任部長
岡上 明正
おかうえ あきまさ

臨床検査科

診療科の紹介 -----

臨床検査科は2019年より正式な標榜科としてスタートいたしました。現在常勤医師1名、非常勤病理医師5名で運営し、診療内容は臨床検査に関わる各種診断、検査、管理、コンサルテーション業務を主体に活動を行なっています。病理診断に関する業務は産業医科大学第2病理学講座の協力、生理機能検査は関連各診療科医師に協力いただいています。

また各種の検査結果に基づき院内の感染制御、医療安全業務、労働衛生業務に協力しています。

取り扱う主な疾患 -----

- 一般、生化学、免疫・輸血、血液に関わる各種検体の検査、診断および管理等
- 細菌、真菌およびウイルスに関わる同定、遺伝子解析検査等
- 病理診断および検査(生検、手術材料に関する病理診断および病理解剖等)
- 生理機能検査(心電図、超音波検査、肺機能検査、脳波検査等)
- 上記検査に関する診断、コンサルテーション
- 輸血関連製剤の適正使用に関するアドバイス

当科の特徴 -----

2018年の臨床検査に関する医療法等の改正により、各種検査に精度管理者を配置し、正確な検査結果を保証するとともに検査機器の日々の的確な管理が求められるようになりました。現在の医療では、数年前と比べても疾患の細分化は進んでおり、治療はその細分化された診断に基づき行なわれます。検査機器もそれに併せて日々進歩し、正しい検査結果無くして正確な診断や治療は困難な時代を迎えつつあります。

救急医療の現場では迅速で正確な検査結果が必要とされる一方で、小児疾患、がん診療等においては慎重な取り扱いを必要とする遺伝子検査が必要となることがございます。常に病状や状況に合わせて、最適な医療を提供出来るように各診療科と連携し、積極的に診療をサポートしています。

（令和4年度の新たな取り組み）

- COVID-19診療において、新たなSARS-CoV-2検査機器を運用し、症例に応じてより迅速な診断が可能となりました。
- 非血縁者間骨髄採取施設認定に向けた協力をしない、令和4年12月より施設認定されました。

当科には日本臨床検査医学会および日本病理学会専門医資格を有する常勤、非常勤医師が所属し、最新の知見を取り入れながら協力して診断検査業務に当たっています。

令和4年度 診療実績 -----

検査項目	検査実績(検査項目数)
一般検査	166,024
生化学検査(含、免疫・輸血)	497,425
血液検査	202,759
生理検査	14,026
細菌検査	28,072
時間外緊急検査	248,019
病理検査(生検・術材)	1,480(件数)
病理検査(術中迅速組織検査)	12(件数)
病理検査(細胞診)	1,326(件数)
病理解剖	4

| スタッフ紹介 |



臨床検査科主任部長

木村 聰

きむら さとし

専門医・資格認定等一覧

専門医・資格認定等一覧

外科

院長

消化器・肝臓病名譽センター長

岡本 好司

おかもと こうじ



- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本肝胆脾外科学会高度技能指導医
- ・日本肝臓学会専門医・指導医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- ・日本消化器病学会専門医・指導医
- ・日本乳癌学会認定医
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医・腹部救急暫定教育医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医
- ・日本Acute Care Surgery学会認定外科医
- ・日本血栓止血学会血栓止血認定医
- ・日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医
- ・外科周術期感染管理教育医

統括部長

救命救急センター長

木戸川 秀生

きどがわ ひでお



- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- ・日本救急医学会専門医
- ・日本消化器病学会専門医
- ・日本内視鏡外科学会技術認定医
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医・腹部救急暫定教育医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医

小児外科主任部長

新山 新

しんやま しん



- ・日本小児外科学会専門医
- ・日本外科学会専門医

外科主任部長

山吉 隆友

やまよし たかとも



- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- ・日本消化器病学会専門医
- ・日本外傷学会専門医
- ・日本がん治療認定医機構認定医
- ・日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医

消化器外科主任部長

消化器・肝臓病センター長

野口 純也

のぐち じゅんや



- ・日本外科学会外科専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医
- ・日本消化器病学会専門医
- ・日本肝臓学会専門医

外科部長

上原 智仁

うえはら としひと



- ・日本外科学会外科専門医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器病学会専門医

外科部長

又吉 信貴

またよし のぶたか



- ・日本外科学会外科専門医

外科部長

沖本 隆司

おきもと たかし



- ・日本外科学会専門医
- ・日本消化器病学会消化器病専門医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・日本消化器外科学会専門医・消化器がん外科治療認定医

外科部長

大坪 一浩

おおつぼ かずひろ



外科副部長

福留 唯里加

ふくどめ ゆりか



外科・救急科



呼吸器外科主任部長

救急科主任部長

井上 征雄

いのうえ まさお

- ・日本外科学会専門医
- ・日本呼吸器外科学会認定登録医
- ・日本救急医学会専門医
- ・社会医学系専門医学会専門医・指導医
- ・肺がんCT検診認定機構認定医
- ・日本乳がん検診精度管理中央機関検査マンモグラフィ読影認定医

救急科



救急科部長

平松 俊紀

ひらまつ としき

- ・日本救急医学会専門医
- ・日本化集中治療医学会専門医
- ・日本化学療法学会抗腫瘍化學療法認定医
- ・日本中毒学会認定クリニカル・トキシコロジスト
- ・死体解剖資格認定

救急科



救急科

岡本 健司

おかもと けんじ

内科



内科主任部長

末永 章人

すえなが あきひと

- ・日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医
- ・日本神経学会専門医・指導医

内科



内科部長

森 雄亮

もり ゆうすけ



内科

前田 幸則

まえだ ゆきのり



内科

廣澤 利帆

ひろさわ りほ



内科

宮崎 三枝子

みやざき みえこ

- ・日本内科学会認定内科医・指導医
- ・日本腎臓学会専門医
- ・日本透析医学会専門医
- ・日本骨粗鬆症学会

循環器内科



循環器内科主任部長

津田 有輝

つだ ゆき



循環器内科部長

岩垣 端礼

いわがき はれい

- ・日本内科学会認定内科医
- ・日本循環器学会専門医
- ・日本不整脈心電学会心電図検定1級

循環器内科



循環器内科副部長

中村 圭吾

なかむら けいご



副院長

岡部 聰

おかべ さとし

- ・日本整形外科学会専門医・認定スポーツ医
- ・日本リウマチ学会専門医

専門医・資格認定等一覧

整形外科・リハビリテーション科



整形外科主任部長
リハビリテーション科主任部長
目貫 邦隆
めぬき くにたか
・日本整形外科学会専門医・認定リウマチ医・
認定スポーツ医
・日本手外科学会専門医
・日本骨粗鬆症学会認定医



整形外科部長
栗之丸 直朗
くりのまる なおまさ
・日本整形外科学会専門医・認定スポーツ医・運動器リハ
ビリテーション医・認定脊椎脊髄病医
・日本骨粗鬆症学会認定医



整形外科部長
越智 宣彰
おち のぶあき
・日本整形外科学会専門医



整形外科副部長
大久保 友貴
おおくぼ ゆうき

脳神経外科



脳神経外科主任部長
高松 聖史郎
たかまつ せいしろう
・日本脳神経外科学会専門医・指導医
・日本脳卒中学会専門医
・日本神経内視鏡学会技術認定医
・米国脳神経外科学会国際会員
・日本脳卒中の外科学会
・日本脳神経血管内治療学会
・日本頭蓋底外科学会
・日本神経減圧術学会



脳神経外科副部長
佐藤 甲一朗
さとう こういちろう
・日本脳神経外科学会
・日本脳卒中学会
・日本脳神経血管内治療学会

脳神経外科



脳神経外科副部長
野村 得成
のむら のりあき
・日本脳神経外科学会
・日本脳卒中学会



統括部長
形成外科主任部長
田崎 幸博
たさき ゆきひろ
・日本形成外科学会形成外科専門医・皮膚腫瘍外科分野
指導医・小児形成外科分野指導医
・日本熱傷学会専門医
・日本創傷外科学会専門医

形成外科



形成外科部長
宗 雅
そう みやび
・日本形成外科学会専門医



形成外科部長
藤原 洪平
ふじわら こうへい
・日本形成外科学会専門医

形成外科



形成外科副部長
村山 真由子
むらやま まゆこ



麻酔科主任部長
集中治療室室長
外来担当医
金色 正広
かないろ まさひろ
・日本麻酔科学会専門医・指導医
・日本医療機器学会認定MEDIC
・厚生労働省麻酔科認定医
・日本医師会認定産業医

麻酔科



麻酔科主任部長
手術室室長
齋藤 将隆

さいとう まさたか

- ・日本麻酔科学会専門医・指導医
- ・日本集中治療医学会認定集中治療専門医
- ・厚生労働省麻酔科標準医
- ・日本医師会認定産業医



麻酔科部長
齋藤 美保

さいとう みほ

- ・日本麻酔科学会認定医
- ・厚生労働省麻酔科標準医
- ・日本医師会認定産業医

耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科主任部長
麻生 裕明

あそう ひろあき

- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医

眼科



眼科主任部長
板家 佳子

いたや よしこ

- ・日本眼科学会専門医

精神科



精神科主任部長
白石 康子

しらいし やすこ

- ・日本精神神経学会専門医・指導医

放射線科



放射線科主任部長
今福 義博

いまふく よしひろ

- ・日本医学放射線学会放射線診断専門医
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医

放射線科



放射線科部長
神崎 修一

こうざき しゅういち

- ・日本医学放射線学会放射線診断専門医
- ・日本IVR学会専門医・指導医
- ・日本超音波医学会指導医
- ・肺がんCT検診認定機構認定医
- ・日本消化器集団検診学会認定医

泌尿器科



泌尿器科主任部長
松本 博臣

まつもと ひろおみ

- ・日本泌尿器科学会専門医・指導医

泌尿器科



泌尿器科部長
山崎 豪介

やまさき ごうすけ

- ・日本泌尿器科学会専門医

皮膚科



皮膚科主任部長
鶴田 紀子

つるた のりこ

- ・日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

皮膚科



皮膚科副部長
古河 裕紀子

ふるかわ ゆきこ



皮膚科
村尾 玲

むらお れい

専門医・資格認定等一覧

婦人科



婦人科主任部長
今福 雅子

いまふく まさこ

- ・日本産科婦人科学会専門医
- ・日本がん治療認定医機構認定医
- ・日本医師会母体保護法指定医師

歯科



歯科主任部長
岡上 明正

おかうえ あきまさ

臨床検査課



臨床検査科主任部長
木村 聰

きむら さとし

- ・日本内科学会総合内科専門医
- ・日本循環器学会専門医
- ・日本臨床検査医学会臨床検査専門医・臨床検査管理医
- ・日本医師会認定産業医

小児科



副院長
小児総合医療センター長
小児神経内科主任部長

あまもと まさの

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医

小児科



小児血液腫瘍内科主任部長
今村 徳夫

いまむら のりお

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
- ・日本血液学会専門医・指導医
- ・日本小児血液・がん学会専門医・指導医
- ・日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医
- ・日本輸血・細胞治療学会認定医・細胞治療認定管理師



小児血液腫瘍内科主任部長
安井 昌博

やすい まさひろ

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
- ・日本血液学会専門医・指導医
- ・日本小児血液・がん学会専門医・指導医
- ・日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医
- ・日本輸血・細胞治療学会認定医・細胞治療認定管理師



小児科主任部長
高野 健一

たかの けんいち

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医



小児科主任部長
石橋 紳作

いしばし しんざく

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医



小児科主任部長
佐藤 哲司

さとう てつじ

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
- ・日本血栓止血学会認定医



小児科部長
稻垣 二郎

いながき じろう

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
- ・日本血液学会専門医・指導医
- ・日本小児血液・がん学会専門医・指導医
- ・日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医



小児科部長
興梠 雅彦

こうろき まさひこ

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
- ・日本血液学会専門医
- ・日本がん治療認定医機構認定医
- ・日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医



小児科部長
富田 芳江

とみた よしえ

- ・日本小児科学会小児科専門医

小児科



小児科部長
富田 一郎

とみた いちろう

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医



小児科部長
小林 国

こばやし まさし

・日本小児科学会小児科専門医
・日本救急医学会専門医



小児神経内科部長
池田 妙

いけだ たえ

・日本小児科学会小児科専門医
・日本小児神経学会小児神経専門医



小児神経内科部長
八坂 龍広

やさか たつひろ

・日本小児科学会小児科専門医



小児科部長
小野 友輔

おの ゆうすけ

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医



小児科部長
小野 佳代

おの かよ

・日本小児科学会小児科専門医
・日本アレルギー学会専門医



小児科部長
福政 宏司

ふくまさ ひろし

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
・日本集中治療医学会認定集中治療専門医



小児科部長
長嶺 伸治

ながみね しんじ



小児神経内科部長
福井 香織

ふくい かおり

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
・日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医



小児科部長
沖 剛

おき たけし

・日本小児科学会小児科専門医
・日本アレルギー学会専門医



小児科部長
松石 登志哉

まついし としや

・日本小児科学会小児科専門医



小児科部長
中野 慎也

なかの しんや

・日本小児科学会小児科専門医
・日本腎臓学会専門医

専門医・資格認定等一覧

小児科



小児科部長
中野 球菜

なかの たまな

- ・日本小児科学会小児科専門医
- ・日本アレルギー学会専門医



小児科部長
藤崎 徹

ふじさき とおる



小児科部長
森吉 研輔

もりよし けんすけ



小児科
松永 千恵

まつなが ちえ

- ・日本内科学会総合内科専門医
- ・日本腎臓学会専門医



小児科
本間 一樹

ほんま

かずき



小児科
藤川 紘志朗

ふじかわ こうしろう



小児科
竹井 文哉

たけい

ふみや



小児科
長井 孝太

ながい

こうた



小児神経内科部長
村上 知恵

むらかみ

ちえ

- ・日本小児科学会小児科専門医
- ・日本小児神経学会専門医

初期臨床研修医



初期臨床研修医
有吉 理恵

ありよし

りえ



初期臨床研修医
福島 創

ふくしま

はじめ

初期臨床研修医



初期臨床研修医
高瀬 耀一
たかせ よういち



初期臨床研修医
小野 周平
おの しゅうへい



初期臨床研修医
天野 翔健
あまの しょうけん



初期臨床研修医
岩崎 可歩
いわさき かほ